

## 「魅力ある県立学校づくり大賞」

優秀賞

福祉教育でのICT活用 ～つながりと広がり求めて～

千葉県立松戸向陽高等学校

東葛飾地区と葛南飾地区を結ぶ主要道路に沿って開発が進んだ住宅街の中、北総線秋山駅から徒歩7分の好立地に本校はあります。普通科と福祉教養科の2学科からなり、平成23年に統合・開校してから12年の歳月を重ねてきました。「向陽」という校名には、太陽に向かって大輪の花を咲かせる向日葵のように、常に周りに温かさをもたらすことのできる福祉マインドを持った人材に成長することへの願いが込められています。現在では約670人の生徒が、スクールポリシーにも集約された「向学」「自立」「共生」を目指して日々の学習に向き合い、豊かな学校生活を過ごしています。

今回「魅力ある県立学校づくり大賞」へ応募した内容は、本校での福祉教育におけるICT活用の推進がもたらした数々のメリットについてです。



県内唯一の福祉系専門学科において、国家資格「介護福祉士」取得のためにも、コロナ禍中においてICT活用の推進は必須でした。校外実習の代替や校内での実践的な学習のため、ICTの活用を有効なツールとして積極的に取り入れてきました。国のスマート専門高校の施策でデジタル演習室が整備されたことも追い風になったと言えるでしょう。

ICT活用を日常の学習に継続することで専門学科としての「主体的学び」や「個別最適化した学び」、そして「協働的学び」が実現されています。コロナ禍への対応とは切り離しても、今日の学びの目的を達成するために必要不可欠なツールとなったのです。

福祉関連企業や事業所、行政機関、高等教育機関等との多方面にわたる連携や協力のもとに特別授業等を行い、ICT活用を実践してきました。こうした学習活動は、本校の福祉教育そのものに効果的な役割を果たしただけでなく、学びの成果としての各種福祉系コンテスト等にも好影響をもたらしました。さらに、福祉教養科の学びの集大成でもある介護福祉士（国家資格）取得も、開校以来初の100%合格という快挙に結び付けました。

近年の介護人材養成への社会的な関心の高まりに合わせて、本校におけるこうした学びの蓄積も耳目を集めるようになっていきます。千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業として企画された県主催の介護フォーラム「真の介護を伝えたい」では、NHKグローバルメディアサービスによる取材を受け、教員と生徒がパネリストとして参加するとともに、NHK Eテレで1時間の番組として放映されるなど、大きな反響を呼びました。これらの取組に参加した生徒からは、「なぜ福祉の学びを目指したのか」「福祉の学びから得たものは何か」「福祉の学びをどう生かすか」などが語られました。番組を見た方々から生徒の考え方への賛辞や、言葉と内容の素晴らしさに感動したという声をたくさん頂戴しました。

この他にも、教育係出版物への取材依頼が複数あり、教員や生徒が執筆した文章、インタビュー等の取材を受けたものとしての文章等が教育系雑誌等に掲載されています。

今後はICT活用と併せて、小・中学校との福祉教育での学習連携を推進したいと考えています。県立高校改革推進プラン第1次プログラムに基づいた「福祉のコンソーシアム」設置に向けた取組にも通じるものですので、どうぞ注目してください。